

神奈川県立鎌倉支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度 神奈川県立鎌倉支援学校第2回運営協議会		
開催日時	令和5年 10月26日(木) 午後9時30分～午後11時00分		
開催場所	会議室		
出席者	委員：5名 事務局：7名		
次回開催予定日	令和6年2月22日(木)		
問合せ先	神奈川県立鎌倉支援学校 副校長 望月 好子 電話番号 0467-45-1951 ファックス番号 0467-43-4808		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	<p>1 学校長挨拶</p> <p>2 学校運営協議会各部会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切れ目ない支援部会 ・福祉避難所運営部会 <p>【質疑応答】</p> <p>Aさん： 二次障害とは？</p> <p>教員1： 自閉症の方は、何で怒られているのか、怒られた理由がわからない場合がある。また、周囲の状況を把握することが難しい場合もある。怒られたということで、自信をなくす、登校できない、家から出られなくなるということがある。</p> <p>Aさん： 外で問題を起こすケースとは？</p> <p>教員1： 他の委員さんが発言されたケースで、会社ではないが、生活の場である。電車の中で、周りとうまく溶け込めないために起こるそうだ。</p> <p>Bさん： 弟がバスに乗って作業所に通っていた。自宅前のバス停で、始発に乗る。いつも運転手の後ろの席に乗る。あるとき、傘がぶつかったようで、「わざとだろ」とずっと言われたが、近所の人が「この子はそんなことはしない」と伝えてその場が収まった。この話は、近所の人からあとで聞いた。近所と付き合いがあったりつながりがあったりすると、生活面で改善することがあるかなと思った。</p> <p>Aさん： 災害があったときに生徒がいた場合は、福祉避難所は開所されないと伺ったが、関谷小学校が避難所になったとき福祉避難所が必要になった場合はどうなるのか？</p> <p>Bさん： 難しいところで、まだ何も決まっていないのが現状。鎌倉市で被害状況の想定がされている。関東大震災を想定した被害で、県の想定では、17%全壊、17%半壊。関谷は7000人で、その34%の方が関谷小学校に身を寄せる。市職員と学校の職員で対応に追われる。関谷小学校には市職員が6名来ることになっ</p>		

ているが、実際にどうか分からない。地域で、避難してきた人に対応できないか考えている。避難所運営を学校と地域で取り組んでいこうと、平時から学校と地域と連携をとっていくことが大事。普段から話ができる関係が大事。避難してくる人がわっと押し寄せてくることを想定して、どの段階で開所できるのか、具体的な人数、どういう人が集まるのかを話し合い、具体的な訓練にしていく。被災後の対応を市職員や学校職員だけでは難しい。課題が多くてどこから取り組んでいくかだが、1つずつ取り組んでいくしかない。ボランティアの助けが大きな力となる。市がボランティアセンターを作れているか、ボランティアが地域にどれくらい入っていけるか、連携がとれているか、具体例を決めて進めていくことが重要。学校の先生は子どもたちの安全を考えていく。地域の方は地域の方でできることを考えていく。

A さん： 本校も鎌倉市の一次避難所にしていいのではないかと思ったがどうなのか。

B さん： この福祉避難所にはこの方を、というふうに振り分けすることで、福祉避難所の受入れが想定しやすくなる。個別避難計画をケアマネージャーが主に作成するが、地域でその人を助けてくれる人がいるかということになると、地域包括や自治会長との連携が必要になってくる。多くの人が避難所に集まり、雨で校舎内に入れるとなれば、どこまで開けられるかは校長先生の判断になる。一次避難所に開けるのは大変なことになる。有事の時、鎌倉市の担当 8 人が小学校の鍵を持っている。支援学校の担当は 6 人と大枠で決まっているが、職員の役割分担は決まっていない。学校職員が鍵を開ける。

教 頭： 近隣に住んでいる職員が集まることになると思うが、実際どう動いていけばよいのか。誰とどう連携をとるのか。不確定の部分がまだある

B さん： 避難してきた人の対応について、地域住民が何かできないかと考えている。

教 頭： 教員側では鍵の開け方を共有しているが、市の職員と話をしていく必要がある。

3 令和 5 年度学校評価中間報告について

- ・今年度の研究テーマと各学部の進捗状況について
- ・令和 5 年度学校評価中間報告

【質疑応答】

A さん： S スケールとは？

教員 2： 慶應義塾大学出版会の本で障害の重い子の実態把握する、学習到達度をチェックし記録することで次の目標を設定できる。

教員 1： 国語や算数などで細かい段階のチェックリストがある。学習到達度を知るために有効。

A さん： 主権者教育とは？

教員 2： 自分たちで選挙に行く、学校のことを考える、公約を知る、模擬投票を経験するなど。18 歳から選挙権を持つので、興味関心を持って学習に取り組む。

C さん： 良い取り組みである。意思決定支援にはプロセスがある。小学部から高等部へ、段階を経ている。形成して、表出、決定へプロセスになっている。

自立支援の自立とは、障害を持っている人にとっては、必要な支援を得て、その人らしく生きていくことである。自立支援プログラムの中で、身支度ができることがある。1時間かけて身支度できるが、用事があるから15分で身支度したいから誰かに手伝ってもらうことも大切である。

良い取り組みなので、研究が外部の方にも見える形でまとめてもらうとよい。

Cさん： ボランティア養成については、「4」で実施済み。登録されている方は、どういった方なのか。地域の方が入っている。どんなことをしているのか。

教員3： 昨年度はコロナ禍で、講習会は実施したが、行事が中止となったため、新規でボランティア登録した方が参加する機会がなかった。ボランティアには、実習に入った学生や地域の方がいる。授業のお手伝いや子どもたちの支援など行っている。授業で作ったものを地域の方に渡した。学校でボランティア募集するが、なかなかつながらない。ホームページやお便り、マイタウン玉縄を活用している。つながっていくとよい。

教 頭： 7月にボランティア講習会を開催。登録ボランティアに登録してもらう。日常的にボランティアで入って活動している地域の方が2名。中学部に週4回、高等部A部門に週1回。

校 長： 関谷小学校のボランティアの入り方はどうされているか。

Dさん： ボランティアではないが、「かまくらっ子発達支援サポーター」が入っている。教育委員会が取りまとめている。支援が必要な児童に対して生活面及び安全面の介助を行っている。市や県の広報で知らせると有効かと思う。